

令和8年6月24日

利根川水系渇水対策連絡協議会

(事務局：国土交通省関東地方整備局)

利根川水系渇水対策連絡協議会幹事会(臨時)の結果

6月24日に開催しました令和8年度 利根川水系渇水対策連絡協議会幹事会の臨時開催の結果をお知らせいたします。

1. 開催状況

日時 令和8年6月24日(水) 14:00～15:00

場所 Web会議

構成 国土交通省関東地方整備局、経済産業省関東経済産業局、農林水産省関東農政局、東京都、千葉県、埼玉県、茨城県、群馬県、栃木県、独立行政法人水資源機構

目的 利根川上流ダム群等の現状把握と今後の対応について協議するため

2. 開催結果

別紙のとおり

<発表記者クラブ> 竹芝記者クラブ 神奈川建設記者会 埼玉県政記者クラブ 東京都庁記者クラブ
千葉県政記者会 茨城県政記者クラブ 栃木県政記者クラブ 刀水クラブ・テレビ記者会 水資源記者クラブ

<問い合わせ先>

関東地方整備局 河川部

電話：048-601-3151 (代表) FAX：048-600-1379

河川環境課 課長 土谷 (つちや) (内線：3651)

建設専門官 田島 (たじま) (内線：3652)

水政課 水政調整官 関口 (せきぐち) (内線：3515)

課長 井上 (いのうえ) (内線：3551)

課長補佐 菅間 (すがま) (内線：3557)

現状と今後の対応

(1)現状

- ・ 令和7年から同8年にかけての冬は、積雪が平均を下回り、消雪も平均より1ヵ月程度早い時期となりました。
- ・ 栗橋地点(埼玉県久喜市栗橋地先)上流域平均の降水量は、3月と4月は、過去78年間(昭和23年～令和7年)の平均値と同程度の降水量があったものの、令和7年6月から令和8年5月まで連続して、平均値を下回る状況が継続していました。
- ・ 利根川9ダムでは、下流の水利用等のために必要な水量をダムから放流した結果、6月22日0時現在の貯水量は2億7,897万 m^3 、貯水率51%となっています。これは平成4年以降の同日貯水量の平均に対して80%であり、過去35年間(平成4年から令和8年)の同日の貯水量の中では少ない方から4番目となります。なお、過去に本年より少ない貯水量を記録した平成25年と平成28年では、夏季に取水制限が実施されています。

(2)今後の見通し

- ・ 気象庁が6月18日に発表した向こう1ヶ月の見通しでは、降水量は平年よりも「少ない」確率が20%、気温については「高い」確率が20%の予報となっています。
- ・ 利根川流域では、今後も農業用水や都市用水等の水需要が増加することが見込まれる一方で、少雨傾向が継続した場合には、河川流量が減少してダムからの補給が必要となり、貯水量が減少することが懸念されます。

(3)今後の対応

- ・ 利根川9ダムでは、昨年の夏から続いた少雨の影響を受け、現在の貯水量が過去に渇水が発生した年と同様に厳しい状況にあります。今後も、限りある水資源の有効利用を図るために、上流ダム群と下流施設が連携したきめ細やかな運用を行います。
- ・ 引き続き梅雨前線の影響による降雨、台風第7号及び台風第8号の動向を監視しつつ、利根川9ダムが補給に転じ、貯水量の減少が継続する状況となった場合には、再度、利根川水系渇水対策連絡協議会幹事会を開催し、対応を協議することを確認しました。
(協議会の開催日時、場所については、事務局より改めて公表します)
- ・ また、利根川に関係する水利用者の皆さまに対し、必要に応じて、節水への取り組みを促すために、広く広報活動を実施することとします。

利根川上流ダム群等の現状と今後の見通しについて



奥利根湖と利根川源流の山々（令和8年6月22日撮影）

令和8年6月24日

関東地方整備局

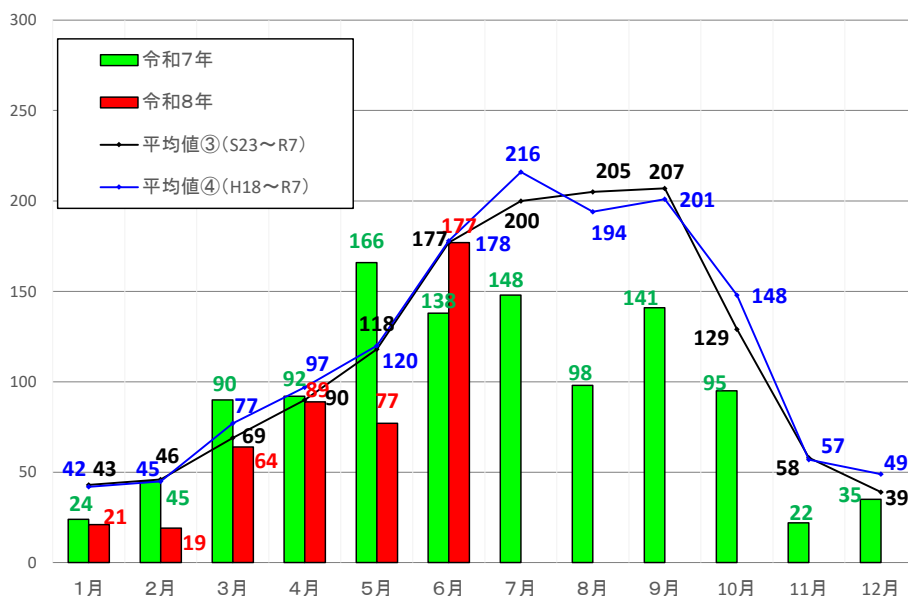
1. 利根川上流9ダム等の現状

(1) 利根川

1) 栗橋地点上流域平均降水量の状況（令和8年6月22日0時までの降水量）

栗橋地点（埼玉県久喜市栗橋地先）上流域における降水量は、4月は平均値（昭和23年～令和7年の78年間の平均）と同程度の降水量となりましたが、5月の降水量は、平均値118mmの約7割に相当する77mmの降水量となり、6月の降水量は22日0時時点で、平均値177mmと同じ降水量となっています。

（図－1、表－1 参照）



図－1 利根川栗橋地点上流域平均降水量（令和8年6月22日0時まで）

表－1 利根川栗橋上流域平均降水量（令和8年6月22日0時まで） 単位：mm

単位 (mm)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	摘要
平成27年	57	36	63	86	45	221	248	207	300	29	127	33	1,452	-
平成28年	69	36	57	104	56	156	134	328	312	55	68	56	1,431	-
平成29年	61	37	56	73	95	97	240	274	113	368	18	22	1,454	-
平成30年	39	17	108	69	128	114	178	187	254	56	23	35	1,208	-
令和元年	26	17	75	96	108	248	249	195	95	489	56	36	1,690	-
令和2年	76	25	99	134	104	211	278	81	163	146	10	29	1,356	-
令和3年	34	45	102	78	95	181	256	271	151	77	59	70	1,419	-
令和4年	28	47	58	127	142	134	282	118	217	65	70	36	1,324	-
令和5年	22	26	86	64	138	270	90	193	154	102	48	23	1,216	-
令和6年	49	65	135	87	130	145	148	306	154	124	76	25	1,444	-
平均値① (S23~R6)	44	46	69	90	117	177	200	207	208	130	59	39	1,386	-
平均値② (H17~R6)	45	45	75	94	114	175	225	203	201	148	58	50	1,433	-
令和7年	24	45	90	92	166	138	148	98	141	95	22	35	1,094	-
平均値①に対する割合	55%	98%	130%	102%	142%	78%	74%	47%	68%	73%	37%	90%	79%	-
平均値③ (S23~R7)	43	46	69	90	118	177	200	205	207	129	58	39	1,381	-
平均値④ (H18~R7)	42	45	77	97	120	178	216	194	201	148	57	49	1,424	-
令和8年	21	19	64	89	77	177							447	-
平均値③に対する割合	49%	41%	93%	99%	65%	100%							32%	-

注) 平均値①、③は各年に対してデータが存在する期間（77ヶ年又は78ヶ年）を平均したものの平均値②、④は降水量の変化傾向を確認するために直近20ヶ年を平均したものの

2) 利根川上流 9 ダムの貯水状況等 (令和 8 年 6 月 22 日 0 時現在)

利根川上流 9 ダムの合計貯水量は、平均よりも約 1 ヶ月早い消雪の後に、農業用水や都市用水等に必要となる水量を確保するために行った放流により、平均値を下回ったままです。

利根川上流 9 ダムのうち 4 ダム (矢木沢ダム、奈良俣ダム、相俣ダム、下久保ダム) では、既に洪水期間中 (7 月～9 月) の満水時における貯水量よりも少ない状況であり、6 月 22 日 0 時現在において、利根川上流 9 ダムの合計貯水量は 27,897 万 m³ (貯水率 51%) となっています。

(図-2、表-2 参照)

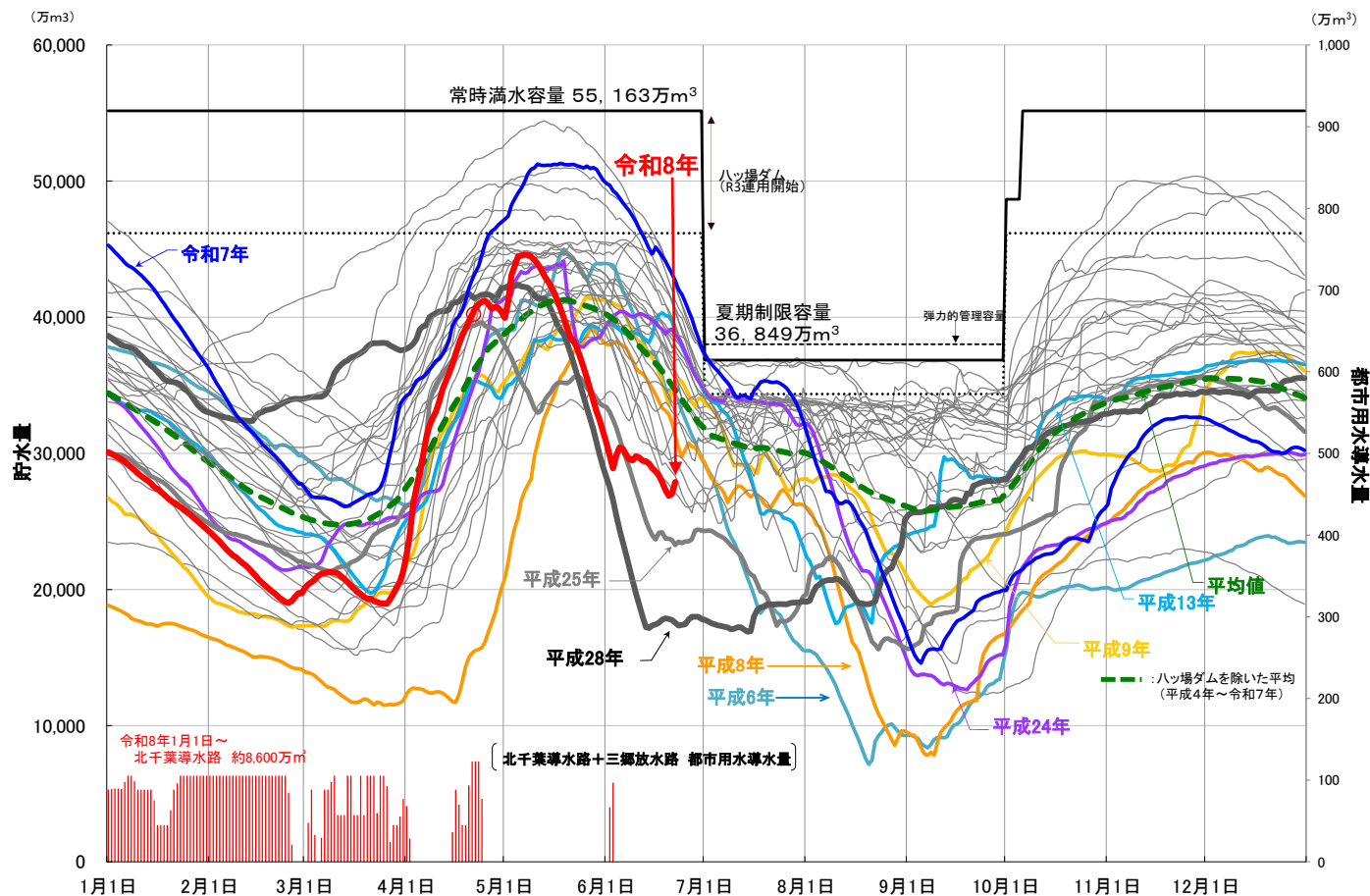


図-2 利根川上流 9 ダム合計貯水量図 (令和 8 年 6 月 22 日 0 時現在)

表-2 利根川上流 9 ダム ダム別貯水量 (令和 8 年 6 月 22 日 0 時現在)

ダム名	有効容量 (万m ³)	貯水量 (万m ³)	貯水率 (%)
矢木沢ダム	11,550	6,280	54
奈良俣ダム	8,500	5,235	62
藤原ダム	3,101	1,655	53
相俣ダム	2,000	1,020	51
藪原ダム	1,322	463	35
ハツ場ダム	9,000	3,609	40
下久保ダム	12,000	3,829	32
草木ダム	5,050	4,123	82
渡良瀬貯水池	2,640	1,683	64
9 ダム合計	55,163	27,897	51
8 ダム合計の平均値 (平成 4 年～令和 7 年)		34,696	(平均値に対して80%)

※有効容量は常時満水容量であり、貯水率は常時満水容量に対する貯水量の割合
 ※過去の貯水量平均値は、ハツ場ダム貯水量を含めず 8 ダムの合計貯水量で計算したもの

3) 北千葉導水路の運用状況

北千葉導水路は、上流ダム群の貯水量の回復と温存を図ることを優先した運用を行っています。ダム群の貯水量が回復した4月下旬からは、利根川下流部から江戸川への導水を停止していましたが、その後、用水補給に伴いダム群の貯水量が減少したことから、6月上旬より導水を再開しています。台風第6号の影響等により流況が改善した以降は、導水を停止しています。引き続き、降雨及び流況等を常時監視しながら、必要なタイミングで必要な水量を下流施設から導水するきめ細やかな運用を実施して参ります。

(図-2 参照)

5) 下久保ダムの貯水状況等

下久保ダムの下流域では、5月26日9時から10%の取水制限が行われています。台風第6号等の降雨により貯水量は増加しましたが、依然として低い水準で推移しており、6月22日0時現在で貯水量は3,829万m³(貯水率32%)となっています。

(図-3 参照)

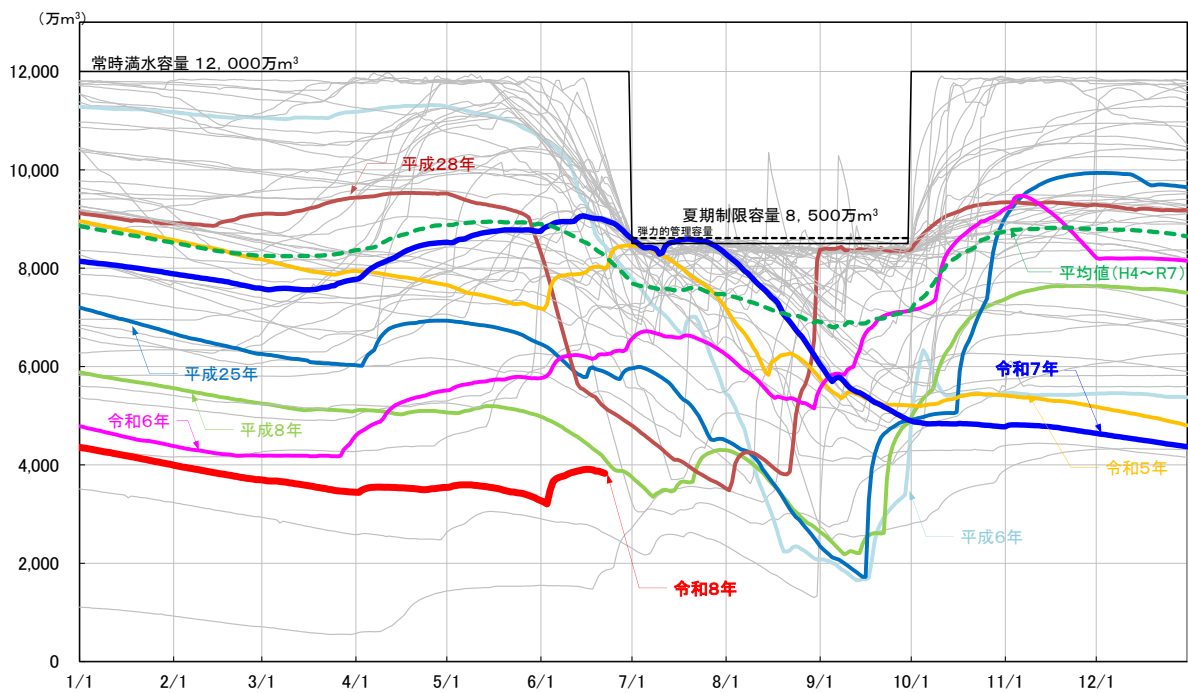


図-3 下久保ダム貯水量図(令和8年6月22日0時現在)

(2) 鬼怒川

1) 佐貫地点上流域平均降水量の状況(令和8年6月22日0時までの降水量)

佐貫地点(栃木県塩谷町佐貫地先)上流域における降水量は、4月は平均値(昭和47年~令和7年の54年間の平均)を上回る降水量となりましたが、5月の降水量は、平均値126mmの約8割に相当する105mmの降水量となり、6月の降水量は22日0時時点で、平均値179mmを上回る189mmの降水量となっています。

(図-4、表-3 参照)

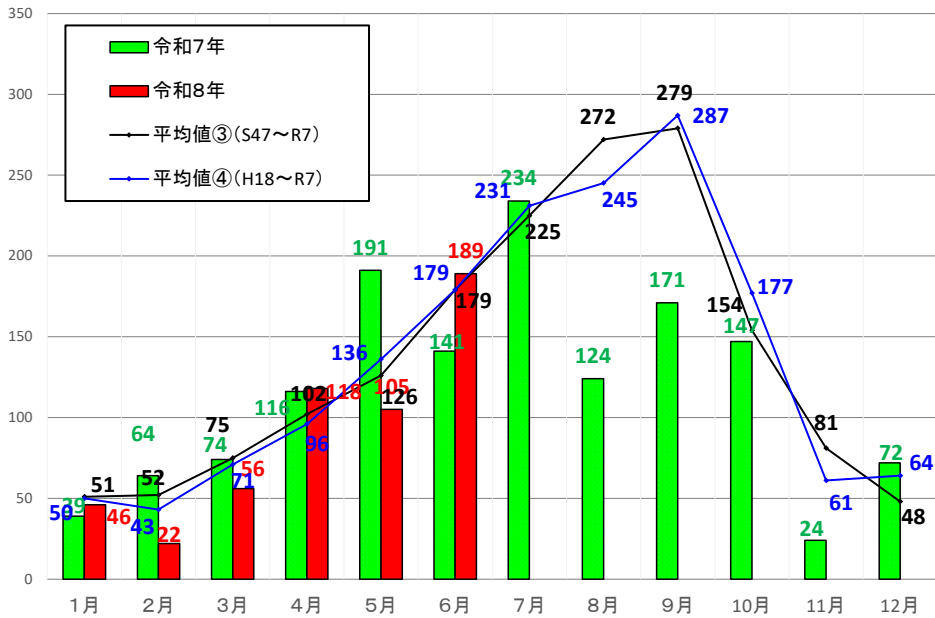


図-4 鬼怒川佐貫地点上流域平均降水量（令和8年6月22日0時まで）

表-3 鬼怒川佐貫地点上流域平均降水量（令和8年6月22日0時まで）単位：mm

単位 (mm)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	摘要
平成27年	55	67	82	68	61	204	276	201	624	28	112	47	1,825	
平成28年	66	35	31	109	63	138	94	401	306	49	53	47	1,392	
平成29年	91	45	38	74	93	95	242	337	200	392	18	62	1,687	
平成30年	73	19	174	74	132	94	240	330	328	107	31	51	1,653	
令和元年	23	12	71	71	149	245	251	266	132	590	64	25	1,899	
令和2年	106	19	78	172	108	135	231	102	369	120	12	44	1,496	
令和3年	34	56	125	101	99	186	255	364	169	91	111	116	1,707	-
令和4年	56	53	61	115	207	145	296	162	239	77	62	48	1,521	
令和5年	30	26	63	68	150	248	87	321	211	116	87	13	1,420	-
令和6年	74	43	133	76	162	109	169	359	185	128	82	41	1,561	-
平均値① (S47~R6)	51	51	75	102	125	179	225	275	281	154	82	47	1,647	
平均値② (H17~R6)	51	42	71	95	133	181	231	251	293	178	63	63	1,652	-
令和7年	39	64	74	116	191	141	234	124	171	147	24	72	1,397	-
平均値①に対する割合	76%	125%	99%	114%	153%	79%	104%	45%	61%	95%	29%	153%	85%	-
平均値③ (S47~R7)	51	52	75	102	126	179	225	272	279	154	81	48	1,644	
平均値④ (H18~R7)	50	43	71	96	136	179	231	245	287	177	61	64	1,640	-
令和8年	46	22	56	118	105	189							536	-
平均値③に対する割合	90%	42%	75%	116%	83%	106%							33%	-

注) 平均値①、③は各年に対してデータが存在する期間（53ヶ年又は54ヶ年）を平均したものの平均値②、④は降水量の変化傾向を確認するために直近20ヶ年を平均したものの

2) 鬼怒川上流4ダムの貯水状況等（令和8年6月22日0時現在）

鬼怒川上流4ダムの合計貯水量は、例年よりも早い消雪と少雨傾向が続いたことにより、過去に取水制限が実施された平成25年（10%取水制限）や平成28年（20%取水制限）と同水準の貯水量まで減少しています。各ダムでは、既に洪水期間中（7月～9月）の満水時における貯水量よりも少ない状況であり、6月22日0時現在において、鬼怒川上流4ダムの合計貯水量は10,805万m³（貯水率58%）となっています。

（図-5、表-4 参照）

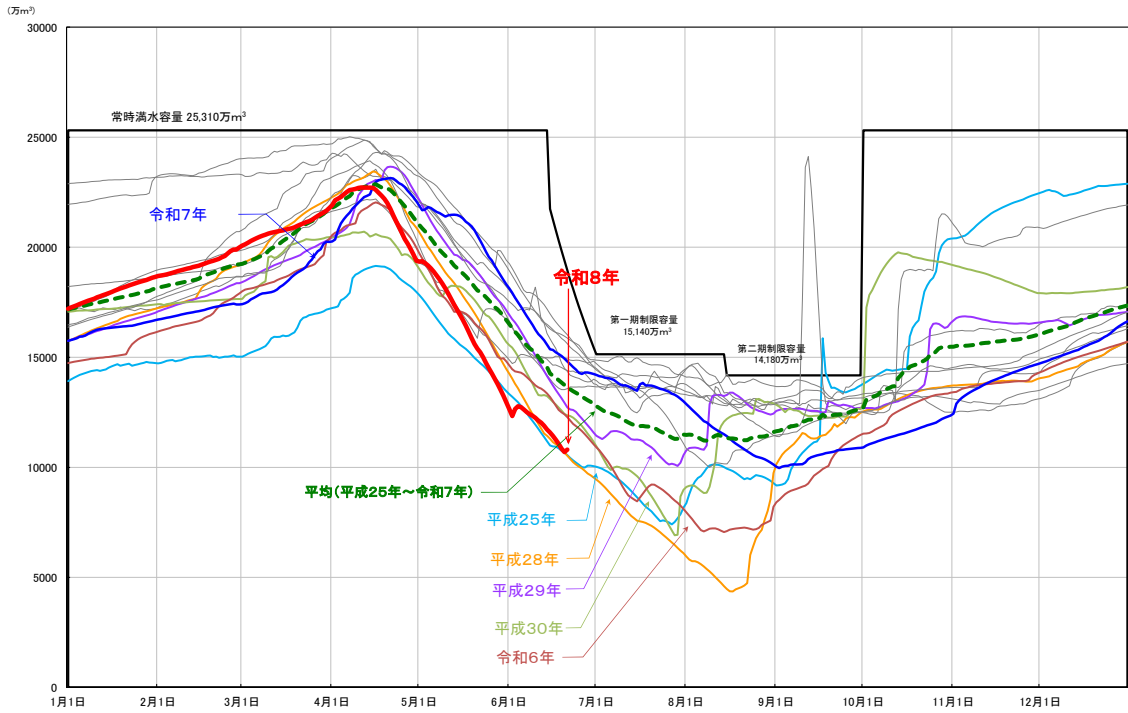


図-5 鬼怒川上流4ダム合計貯水量図(令和8年6月22日0時現在)

表-4 鬼怒川上流4ダム ダム別貯水量(令和8年6月22日0時現在)

ダム名	有効容量 (万m ³)	貯水量 (万m ³)	貯水率 (%)
五十里ダム	1,650	959	58
川俣ダム	5,290	2,903	55
川治ダム	5,819	3,085	53
湯西川ダム	5,746	3,858	67
4ダム合計	18,505	10,805	58
4ダム合計の平均値 (平成25年~令和7年)		13,541	(平均値に対して80%)

※有効容量は常時満水容量であり、貯水率は常時満水容量に対する貯水量の割合

(3) 荒川水系

1) 秋ヶ瀬地点上流域平均降水量の状況（令和8年6月22日0時までの降水量）

秋ヶ瀬（埼玉県志木市宗岡地先）地点上流域における降水量は、4月は平均値（昭和40年～令和7年の61年間の平均）を上回る降水量となりましたが、5月の降水量は、平均値116mmの約7割に相当する84mmの降水量となり、6月の降水量は22日0時時点で、平均値を上回る200mmの降水量となっています。

(図-6、表-5 参照)

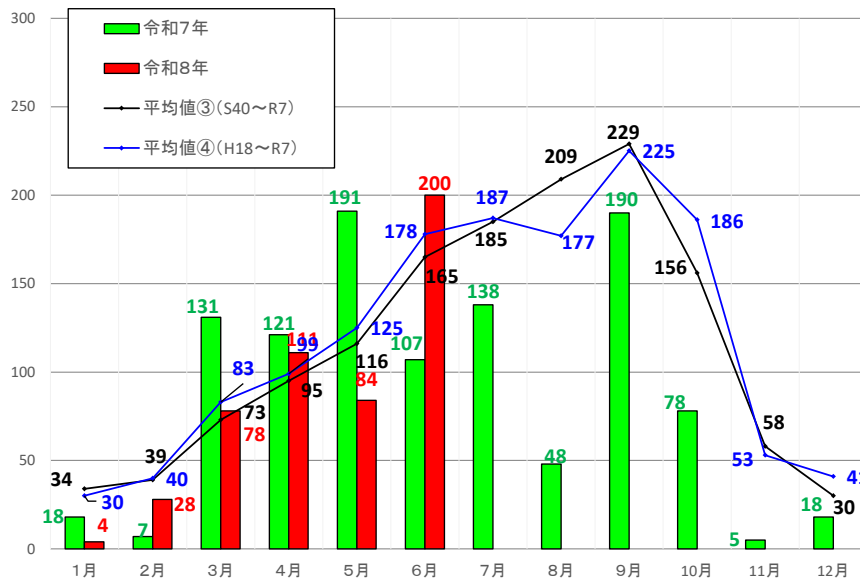


図-6 荒川秋ヶ瀬地点上流域平均降水量（令和8年6月22日0時まで）

表-5 荒川秋ヶ瀬地点上流域平均降水量（令和8年6月22日0時まで）単位：mm

単位(mm)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	摘要
平成26年	8	179	51	51	73	512	125	182	125	286	62	28	1,682	
平成27年	41	23	48	84	47	192	281	213	322	26	119	28	1,424	
平成28年	75	53	74	72	44	119	90	462	247	31	87	60	1,414	
平成29年	24	10	73	67	67	70	218	263	138	488	13	7	1,438	
平成30年	27	17	160	53	124	118	200	184	340	44	21	24	1,312	
令和元年	10	24	97	58	91	239	225	137	166	725	80	29	1,881	
令和2年	95	11	105	186	103	221	304	56	261	209	5	3	1,559	
令和3年	36	43	110	60	102	140	288	209	144	117	51	66	1,366	
令和4年	7	26	65	162	110	159	278	123	233	109	64	25	1,361	
令和5年	6	25	86	39	142	296	47	173	173	67	47	9	1,110	-
令和6年	26	58	124	72	160	184	103	409	115	146	65	2	1,464	-
平均値①(S40~R6)	34	40	72	95	115	166	186	212	229	157	59	31	1,396	-
平均値②(H17~R6)	31	42	81	98	122	181	189	184	227	191	56	42	1,444	-
令和7年	18	7	131	121	191	107	138	48	190	78	5	18	1,052	-
平均値①に対する割合	53%	18%	182%	127%	166%	64%	74%	23%	83%	50%	8%	58%	75%	-
平均値③(S40~R7)	34	39	73	95	116	165	185	209	229	156	58	30	1,389	-
平均値④(H18~R7)	30	40	83	99	125	178	187	177	225	186	53	41	1,424	-
令和8年	4	28	78	111	84	200							505	-
平均値③に対する割合	12%	72%	107%	117%	72%	121%							36%	-

注) 平均値①、③は各年に対してデータが存在する期間（60ヶ年又は61ヶ年）を平均したものの平均値②、④は降水量の変化傾向を確認するために直近20ヶ年を平均したものの

2) 荒川4ダムの貯水状況等（令和8年6月22日0時現在）

荒川4ダムの合計貯水量は、3月下旬から増加傾向にあります。依然として平均値以下で推移しています。令和8年6月22日0時時点で荒川上流4ダムの合計貯水量は7,377万m³（貯水率51%）となっています。

（図-7、表-6 参照）

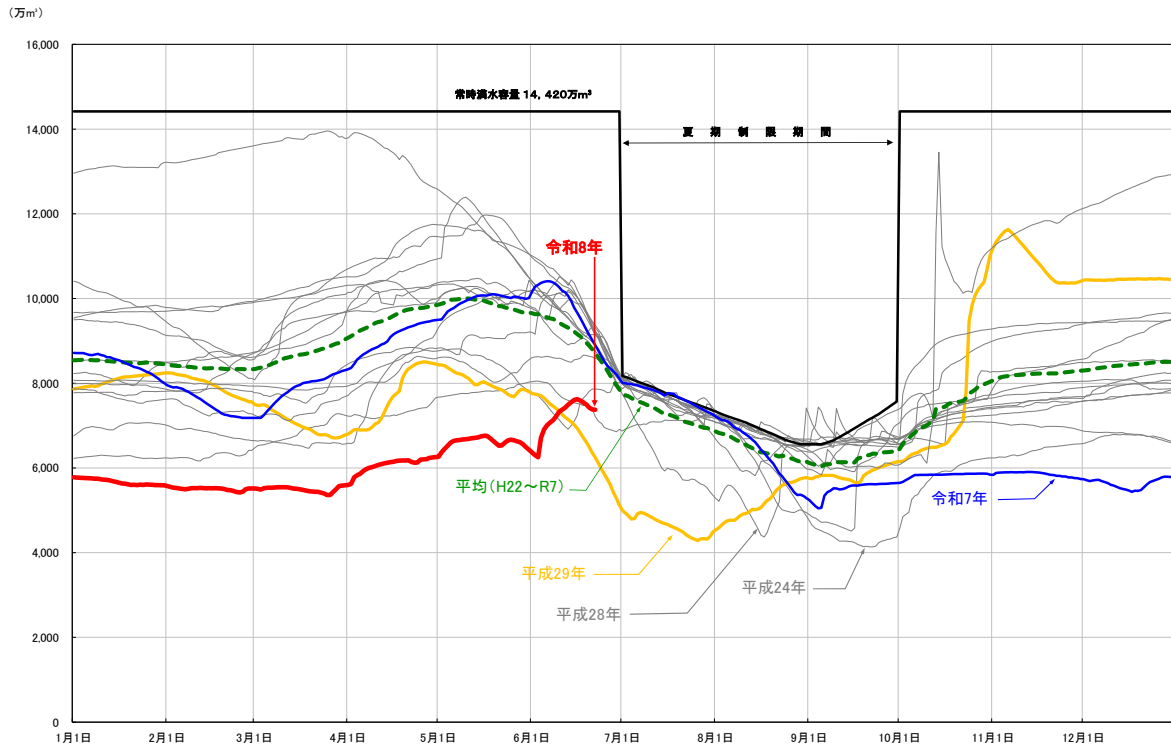


図-7 荒川4ダム合計貯水量図（令和8年6月22日0時現在）

表-6 荒川4ダム ダム別貯水量（令和8年6月22日0時現在）

ダム名	有効容量 (万m ³)	貯水量 (万m ³)	貯水率 (%)
二瀬ダム	2,000	939	47
滝沢ダム	5,800	2,400	41
浦山ダム	5,600	3,017	54
荒川貯水池	1,020	1,021	100
4ダム合計	14,420	7,377	51
4ダム合計の平均値 (平成22年～令和7年)		8,701	(平均値に対して85%)

※有効容量は常時満水容量であり、貯水率は常時満水容量に対する貯水量の割合

(4) 多摩川水系

1) 小河内ダム地点上流域平均降水量の状況（令和8年6月22日9時までの降水量）

小河内ダム地点上流域における降水量は、4月は平均値（大正14年～令和7年の101年間の平均）を上回る降水量となりましたが、5月の降水量は、平均値123mmの約6割に相当する79mmの降水量となり、6月の降水量は22日9時時点で、平均値182mmの約9割に相当する164mmの降水量となっています。

（図-8 参照）

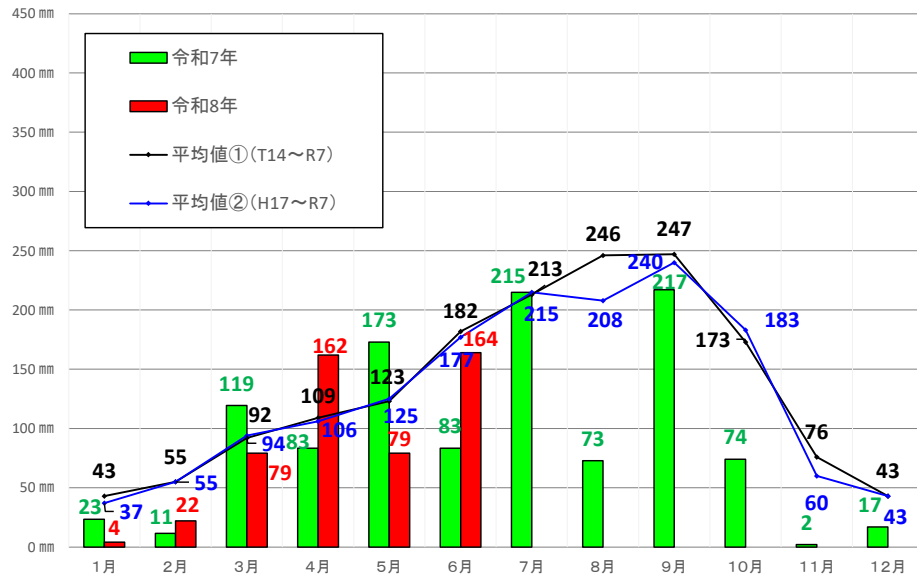


図-8 多摩川小河内ダム地点上流域平均降水量（令和8年6月22日9時までの降水量）

2) 小河内ダムの貯水状況

令和8年6月22日7時現在の貯水量は、7,108万m³となっています。（図-9 参照）

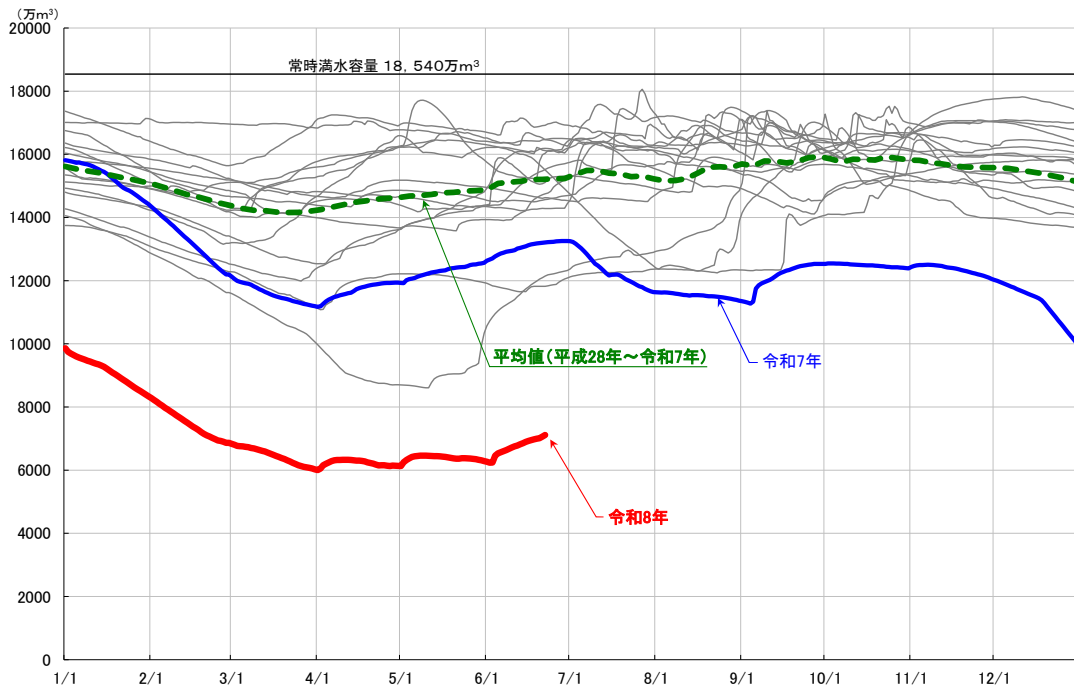


図-9 多摩川小河内ダム貯水容量図（令和8年6月22日7時現在）

2. 今後の見通し

(1) 気象予報

令和8年6月18日気象庁発表の関東甲信地方の1か月予報(令和8年6月20日から令和8年7月19日までの見通し)によると、向こう1か月の気温は「低い」と「平年並み」の確率があわせて80%、降水量は「多い」と「平年並」の確率が合わせて80%となっています。

また、令和8年5月19日気象庁発表の3か月予報(令和8年6月から令和8年8月までの見通し)によると、向こう3か月の気温は「高い」の確率が70%、降水量は「平年並」と「多い」の確率が合わせて70%となっています。

1か月予報（令和8年6月18日発表）



3か月予報（令和8年5月19日発表）

